



平成19年4月18日発行  
第60号

発行 行 援 会  
印南 宏 後 援 会  
発行責任者 印南 宏



暖冬の今年、少し早く満開に咲いた桜も葉桜へ、平和台メイン道路のツツジもつぼみが膨らみ、新緑がまぶしい季節となりました。平和台の皆様いかがお過ごしでしょうか！

今年は十二年に一度の、四月の統一地方選と夏の参議院選の重なる年、四月県議選では平和台の皆様が大変お世話になりました。私にとっては大変ショッキングな結果に終わりましたが今は気分一新、初心に戻って活動を再開いたしました。

四月は入学式のシーズン、布佐南小には三十人、布佐小には五十四人のピカピカの一年生が入学しました。少子高齢化の時代を迎え、我孫子市は西高東低の様相が顕著になってきました。西側の三小(天王台地区)や根戸小(我孫子、つくしの地区)は入学する子どもの数は増えていますが、東側の新木、布佐地区は子どもの数が減少しています。大型マンション群の建設ラッシュなど開発の差、社会的要

因によるものですが、成田線の利便化の遅れも一因であることは明らかです。改めて成田線の増発、交通の利便性向上に力を傾注する必要があることを再認識させられました。

**平成十九年三月定例会市議会  
星野順一郎市長  
初陣の市議会終了！**

春は出会いと別れの季節。我孫子市では、福嶋前市長からバトンを受けた星野新市長が初めての定例会市議会に挑みました。三月議会の主な議案は新年度予算案です。福嶋市長時代は、毎年予算修正を行って議会の承認を得ていましたが、この三月議会は四年ぶりに予算案無修正で議会を通過しました。

しかし、福嶋市政の残した財政基盤の危うさは顕著になっていきます。星野市長は、一刻も早く健全で安全な財政基盤を確立しなければなりません。そのために、若い世代の定住化・人口確保に努め、地域の活性化に向けて手腕を発揮していかなければならなくなっています。



**平成十九年度  
第一回定例会市議会！**

〔会期〕二月二十六日(月)～三月十九日(月) 二十二日間  
〔一般質問〕三月五日～七日、〔常任委員会〕  
三月八日～十三日  
〔予算審査特別委員会〕  
三月十四日～十六日

議案：新年度予算三百十四億五千二百万円(プラス二・九%)をはじめ、三十二議案を審査しました。

主な議案として、副市長を定める条例の制定、市民会館を三月末に廃止、国民保護対策本部及び我孫子市緊急対処事態対策本部条例の制定、中小企業資金融資条例の一部改正、議員発議案として議員報酬の削減、報酬の日割り支給制度の導入などすべての議案を可決・閉会しました。



**是非、ご覧下さい!!**

印南が代表を務める「あびこ21」ホームページ

<http://abiko21.exblog.jp/>

我孫子市 公式ホームページ

<http://city.abiko.chiba.jp>

**あびこ21 会派代表質問骨子**

- ・新市長の所信表明より最重点施策・基本構想と第二次基本計画について
- ・手賀沼文化拠点構想・地域経済活性化策・いじめ問題
- ・手賀沼公園坂通り・我孫子駅舎のあり方・成田線輸送改善調査
- ・中核市に伴う柏保健所問題 他

新年度予算が成立!

争点

新年度予算の審査は七名の予算審査特別委員会を設置し、三日間延べ二十時間にわたり慎重に審査を行なっていました。審査では各委員から多くの意見が寄せられ、特に「子ども総合計画」については、昨年の予算審査特別委員会でも同様の議論があり、改善が不十分な点など多く指摘されました。

その中で①チャレンジウォーク事業は児童一人当たりに係る経費が大きいこと、コースの選定について検討が不十分な点など意見が集中。十九年度事業を実施した上で、きちんとした検証を行なうことを強く要望されました。②子ども交流拠点整備事業は建設位置の見直し、土地利用のあり方、施設そのものの見直しを含め、予算の執行について慎重に行なうことを執行部に確認をしました。③子どもの居場所づくり事業は実施にあたって議会常任委員会への説明・協議を踏まえて行なうように求められました。

農産物直売所設置事業については、アンテナショップの期間が短く、ニーズ調査が不十分であり、周辺に同種の施設もあることから事業として成り立つのか不安視する意見が多く出ました。

南新木三丁目の土地を売却する形で予算編成されている問題では、平成十八年度決算状況を見た上で、財源の手当てがつけば売らないことを確認し、売ることになったとしても常任委員会に了解を得ることが条件となりました。

星野市長の

新たなまちづくり!

今回の予算は星野市長のもとでは始めての予算とはいえ、まだまだ多くの事業で従前のやり方を踏襲したものとなっています。星野市長のもとで新しい執行体制を速やかに確立し、市民のための新たな我孫子づくりを望む声が多く出されました。

◆地域要望(請願・陳情)

- ①中央学院高校下農地に路線・貸し切りバス待機所差し止めの請願(ニュー東豊)
- ②聖仁会病院跡地南側斜面に現存する自然林と地形の保護に関する請願(飯田産業)
- ③新木駅南側地区、地区計画変更に関する請願(「真光」新興宗教進出問題)

◇19年度予算案より(抜粋)◇

○乳幼児医療費助成の拡大 4歳児までではなく就学前までの乳幼児補助	4224万円
○小中学校の耐震大規模改造 我孫子中の工事/湖北台西小の設計 08年度に新木小と湖北台西小の工事行なう。	8310万円
○新木小プールの一般開放	1080万円
○電子入札システムの導入 千葉県電子自治体共同運営協議会	320万円

我孫子駅の改修について

(あびこ21代表質問より)

質問:

我孫子の玄関口である我孫子駅舎の改修に向けて、現在、JRが全体の概略図の作成を進めていると聞いている。市とも協議を重ねながら進められていると思うが、全体概略図の作成とその後の改修方針・スケジュールについて確認したい。

また、財源については、まちづくり交付金の活用など、今から幅広く検討する必要があると思っている。現在進めている「手賀沼文化拠点構想」で、駅舎までを範囲内とし、この事業の位置付け、補助対象にすることも検討に値すると考えるが、如何か?

答弁:

市は二月一日及び二月二十日にJR東日本東京支社に行き、支社長に我孫子駅舎の改修を実施していただくよう強く要望してきた。

我孫子駅舎の全体外略図は、現在、本年六月を目途にJR側が作成している。今後は、整備内容やJRとの費用負担の考え方を整理し、議会と協議を行い、了解をいただいた後、具体的な整備時期や方針を決定し、JRが交通バリアフリー法で予定しているエレベーターの設置年度である平成二十二年度に合わせて整備していく。

財源については、まちづくり交付金や都市再生交通拠点整備補助金、ご指摘の手賀沼文化拠点構想事業への位置付けなどを含め、あらゆるものを活用していきたいと考えている。

のを活用していきたいと考えている。

注意!

二〇〇七年四月から「市民活動災害補償制度」が変わりました。

注意!

市民活動を安心して行っていたために、活動中に起きた事故によるケガなどの傷害や賠償責任を負った際の負担を市が契約をした保険で保障する「市民活動災害補償制度」が四月から「市民公益活動保険」に変わりました。

主に、次のような点が変更になりました。

- 一、補償の対象となる活動がボランティア活動などの「公益的な活動」に限定され、スポーツ・レクリエーション活動や文化活動など、自己の楽しみの活動や趣味を深める活動は対象外となります。(但し、ボランティアの指導者は対象)
- 二、これまで、それぞれの担当課に提出していた事故報告書の提出先が、今後は全て市民活動支援課になります。

この保険は登録制ではなく、補償の対象となるかどうかは、事故が起きた際にどのような活動をしていたかで判断されます。万が一、事故が発生したら十四日以内に、我孫子市民活動支援課までご連絡下さい。○四(七一八五)一四六七(直通)





我孫子駅頭にて  
議会報告する印南宏

### 宏はこう考える！

#### (大量退職時代の人事政策)

現在、職員数約九百七十名の我孫子市役所も、団塊世代が大量に退職する時代を迎え、今後五年間で約二百名もの市職員が定年退職となる。マネジメントの中心である部長級・課長級が一挙に交代せざるを得ない状況となり、新たな人材登用・育成システムが急務となっている。このような状況の中で、市役所の人材登用・そして人材育成について、どのような方針・方策を進めていくのか、首長の手腕が問われ、その自治体の将来を左右する喫緊の課題となっている。

我孫子市も、平成十四年度に作成された「人材育成方針」を現在の社会環境の変化や公務員制度改革の趣旨を踏まえて、徹底的に見直しを行い、新たな人材育成方針を策定し、その方針に従い、新たな人材育成システムを構築する時期にきている。

「なせばなる  
なさねばならぬ何事も  
ならぬは人の  
なさぬなりけり」

～ご参考～  
我孫子市役所職員定年退職者数

平成18年度	34名	(含む途中退職)
平成19年度	45名	+途中退職
平成20年度	37名	+
平成21年度	39名	+
平成22年度	43名	+

#### 宏の独り言 (千葉県議会に望む)

四年に一度の統一地方選、前半戦にあたる県議会選挙が終了した。改選前の千葉県議会は現議員数九十一人中(定数九十八人中欠員七人)、六十一人を占める自民党の一角独裁の県議会でさまざまな弊害が出ている。堂本県政になって、特別秘書の問題で副知事二名が一時空席になる事態が発生、男女共同参画センター設置関連事業は否決され、障害者の差別をなくす条例は約七ヶ月間揉めた上、大幅な修正を余儀なくされたことなど、単独過半数を占める自民党の了解無しには知事の政策は実行されない。政策論争の上でのくい違いならともかく、自民党の独裁で県政が動いている。自民党自体の自浄作用が必要なことは言うまでもない。改選後、民主が善戦したものの、

自民は過半数を維持し、結果的には県議会の勢力地図が大きく塗り替えられるには至らなかった。九十五名となった県議定数で自民五十名、民主二十名、公明七名、共産四人、社民一人、市民ネット二人、無所属(大半は自民へ合流?)十一人となっている。

今、地方分権が加速される中、知事の権限は一層大きくなっている。そのため県議会には強い監視能力と政策立案能力が求められる。地方自治体は首長(知事)と議会の緊張関係で成り立っている。政務調査費や費用弁償のあり方、議員提案条例の低調さなど改善すべき課題が県議会には山積している。政策についても、住民不在の論理で対立するのではなく、分権時代にふさわしい県議会になるよう、情報公開度を高め、選挙で訴えた改革案を実現してほしい。特に、単独過半数を占める自民には、その原動力となる責務があると思っ

#### 千葉県議会に望むことは

##### 一、情報公開度を高めてほしい。

県議会の活動が見えない。何をしているのか、わからない。県民に情報公開されていないのでわからない。今後は県民に開かれた県議会にならなくては、県民は離れていくだけである。常任委員会の録音や速記、議事録がないなど議会の在り方も問われている。毎月の報酬とは別に毎月四十万円支給されている政務調査費の領収書が公開されていない。何に使っているのか? 県民はわからない。報酬と

は別に議会開催中、費用弁償(足代?)として一万四千六百円/日を支給、議会の閉会中も議会棟に来て押印するだけで毎日費用弁償は支給されている。世間の一般常識とあまりにもかけ離れている。県民に納得できる県議会に早急に改革してほしい。

##### 二、議員提案できる県議会議員になつてほしい。

県議会が立法府としての機能を果たしていない。議員立法が皆無の千葉県議会(過去二〇〇一年に県暴走族取締条例が一件提出されているのみ)。議会の調査研究機能を高め立法府としての県議会に変わってほしい。

##### 三、地元議員には我孫子市に役に立つ議員になつてほしい。

成田線の利便化、手賀沼の汚泥処理の予算、未だ全く完成目途のない都市計画道路三・五・十五号線(手賀沼沿い道路)、県立湖北高校の統廃合の問題、県内水道一元化による我孫子市のデメリットなど、県議としての地元発展への役割・パイプ役になつてもらいたい。

##### 四、千葉県財政建て直しに努力してほしい。絶えず改革志向で千葉県の二兆円を超える巨額の借金について削減に向けて努力してほしい。

つくばTX、八ッ場(ヤンバ)ダム、第三セクターの債務超過問題(東葉高速鉄道、北総鉄道他)債務破綻にならないために行財政改革に積極的に取り組んでほしい。

平和台雑感

難関な公務員試験を突破して我孫子市役所に平成十九年度採用された十三名の新入職員に四月二日辞令交付が行われた。議長として入庁式に出席、新入職員の元気でハツラツとした姿、キラキラと輝いている瞳に感動！今後、我孫子市を支えていく重要な戦力になると実感した。地方分権時代、真の地方自治が求められている。採用した若い職員をいかに市民の目線に立ち、市民の立場で考え、市民と共に歩む姿勢を持てる職員に育てていくのか、しっかりとした人事・教育システムの確立が必要になっている。◆注目の東京都知事選挙、苦戦が予想された石原陣営、結果は圧勝で三期目へ。何故こんな結果になったのか。石原知事の指導力、華やかな経歴、二期目の実績等は確かにあるが、独断で差別的な発言を続ける石原知事の姿勢に疑問を持つ都民も多かった。また、都の出資で設立した新銀行東京が巨額な赤字を抱えるなど独自政策の行き詰まりも目立つ。それでも勝ったのは対抗馬である浅野さんの姿勢のふらつきが、石原知事の「指導力」を一段と際立たせたように見える。選挙プランナーである佐々さんが石原知事に贈った「反省しろよ慎太郎、だけど

やっぱり慎太郎」のフレーズが物語るように「我慢」をした石原さん、政策の「ふらつき」が露見した浅野さんでは、その差は大きい。三期目、最後のご奉公に悔いが残ることのない都政運営をしていたらどうか心より祈念している。◆四月十日、インキュベーション交流会に出席をした。インキュベーションとは起業支援の制度、仕組み、施設などを指している。今、団塊の世代の方々がこれまでのキャリアを活かして地域に貢献できるさまざまなコミュニティビジネスを模索している。その第一歩として我孫子市の中心地（我孫子駅南口徒歩五分）に念願のインキュベーション機能を持つ施設ができた。二十七名の出資者がそれぞれ十万円を出し合いリフォーム費用を捻出、完成させた。ABIKOsの運営はNPO法人ACOBAsが担当し、二階には七つの企業と団体が同居、一階は多目的空間として貸し出しが行われる。地盤沈下の激しい我孫子の商工業、この施設が街の活性化の一助、起業する方々の拠点として積極的に活用されることを期待している。◆布佐南小の入学式は市内では珍しい全学年（一年生く六年生）児童の参加で挙行されている。児童数が少ないこともあり開校当初から全学年参加で行われてきた。今年は

三十名の新一年生に二年生全員による「ドキドキドン！一年生」の歌を皮切りに歓迎の言葉がスタートした。全校児童の歌は「世界が一つになるまで」を熱唱。心のこもった入学式となった。三十人の新入生、学年は一クラスであるが皆仲良く元気に育ってほしい。◆最近私が読んだ本。御手洗富士夫「強い日本」、アメリカ型不安社会でいのか（格差、年金、失業、少子化問題の処方せん、橋木俊詔著）、新平等社会「希望格差」を超えて（山田昌弘著）、自治体をどう変えるか（佐々木信夫著）、栗山町初・議会基本条例（橋場利勝著）などである。栗山町議会基本条例は町長や職員への反問権付与（議員に逆に質問できる権利）や議員と町民代表が自由に意見交換する「一般会議」の設置、町民への議会報告会を年一回以上実施する、義務規定などが柱で、昨年五月に制定された。町民の陳情を政策提言と位置付け意見を聞く機会を設けることや重要議案への各議員の態度を広報で公表することも条例で決められている。議会の情報公開度も高く、議会の活性化、住民参加の街づくりにつながる大変参考になる事項が多く紹介されていた。



宏

世界が一つになるまで

作詞：松井五郎

作曲：馬飼野 康二

編曲：奥田 政夫

まぶしい 陽ざしが

君の名前を呼び

おんなじ気持ちで

空が見えるよ

つらいとき

一人きりで

涙をこらえないで

世界が一つになるまで

ずっと手をつないでいよう

あたたかいほほえみでもうすぐ

夢が本当になるから

印南 宏後援会

〒270-1198 我孫子市日の出 1131  
 (日本電気労働組合我孫子支部内)  
 Tel 7184-2860

印南 宏 自宅

布佐平和台 7-1-18  
 Tel 7189-1598  
 e-mail innami@mqd.biglobe.ne.jp  
 ブログ http://hiroshi4649.at.webry.info/